Confidential

コンテンツデータベースについて

2024/07/25

小学館 小沢清人 出版社の取り扱い製品は、内容・対象が多岐に渡っていること、また長期間に 渡り流通させているという点が特徴です。

従来の主力フォーマットは紙・印刷製品で、書店数・人口動態などの環境から、製品の多様性・長期性のメリットを最大限に享受できていたのだと思います。 技術的な進歩による環境変化への一つの解が電子書籍であり、流通フォーマットとしてEPUBがあります。

メタデータについては共通部分とそれぞれの事情に合わせた部分で構成されて いますが、いずれも広義の出版流通への対応となっています。

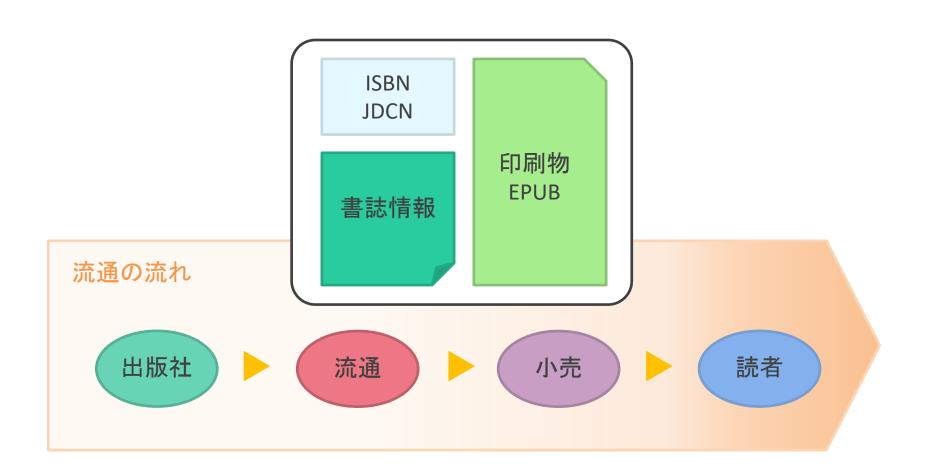
製品特性と市場環境の適合には、目的と環境と整合性のあるメタデータが必要だと考えています。

メタデータによるメディア連携は必定という情勢を受け、その具体化を進める 試みとなります。

すでに出版メタデータ自体、書籍用を超えた他メディア展開のニーズに応える 内容、そしてマーケティング展開や、更にユーザーに刺さる内容を目指して、 リッチ化が進みつつあります。

小沢さんの言われる通り、「それぞれの分野に最適なメタデータを準備することが必要」であり、今回のプロジェクトのユースケースがビジネス実例を生み出すマイルストーンになる事を期待します。

同時に国内、海外の出版業界全体でこの事例を検討し、各社の展開、運用につながるよう、小職が共同議長を務めるW3C Publishing Business Groupの場も利用し前に進めたく考えます。



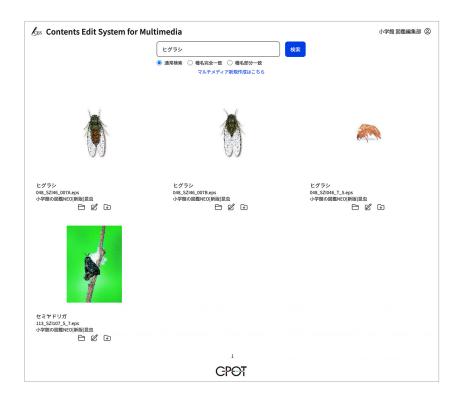
小学館 × CPO SHOGAKUKAN

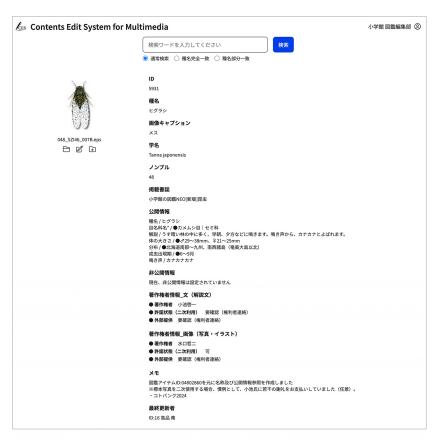
- ・誌面・データ
- ・メタデータ(社内) ・検索・閲覧
- ・メタデータ(外部)

- ・システム開発
- ・管理・保管

- ・既存提供先
- 社内利用
- · 新規外部提供

マルチメディアを中心としたデータ編集•権利状態管理•データ出力のシステム。

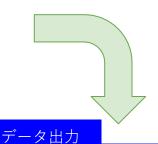






データ編集

複数人で同時に編集し、新規データ作成・既存 データの加筆修正を非エンジニアでも扱えるイン ターフェース上で作業することでデータ作成を高 速化。



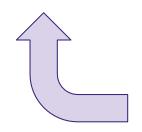
データ管理

システムによるデータ管理により、異なるデータ 間の整合性を担保した管理を実現することで、 データ管理コストを低減。



Contents Edit System for Multimedia

無加工のマスターデータ形式で出力を実施することで、Web•App•紙などの様々な媒体への提供が可能。



データ連携

CESをご利用のお客様には初期からコトバンクへのシステム連携(コトバンクへの自動掲載)の機能を実装されています。データ管理・データ編集のコストに対して早期の収益化を実現。



https://kotobank.jp/

データ管理・編集・出力・収益化を一気通貫で実施可能なシステム

コトバンクに提供することで、広告収益。





収益

拡大

COEDO x NEC x 小学館 『人生醸造craft』



COEDO x NEC x 小学館 人生醸造ビール

小学館の過去40年分の雑誌誌面を

NECの人工知能「WISE」が解析し

誌面データを味・香り・色データに変換

COEDOがビールを醸造

参考記事: https://jpn.nec.com/ai/ai craft/index.html